

地域への思い、脅威への怒りを優先

今回は、老舗企業が事業を継承していく中で、どのように地域社会との関係性を築いているかに焦点をあてる。

岩手の陸前高田でタクシーに乗り、八木澤商店の話をする。運転手から「あそこはこの町で何か事が起きると必ず本陣になる」という話が出る。

実際、900年の伝統がある「気仙町けんか七夕まつり」や20年を超える「全国太鼓フェスティバル」も、八木澤商店が本陣となって運営されている。これは、単に200年の歴史がある企業だからということではなく自らの強い意志によるものだ。

河野和義社長は「地域への思い、地域を脅かすものへの怒りを優先させて行動することは、先代から受け継いでいる精神だ」と語る。

1969年に策定された新全国総合開発計画という大プロジェクトに沿って、重工業地帯に立地

する工場を地方の小さな町に展開していこうという動きがあった。陸前高田市でも、広田湾を工業団地にするために埋め立てる計画が発表され、揺れに揺れていた。7代目河野通義氏は「工業開発は悪いことではないが、同じやるのでもこの町にふさわしい開発の仕方があるはずだ。今の計画では地域の良さはなくなってしまう。孫やひ孫に顔向けできない商売や町づくりはできない」と言い、反対する漁民たちを支援する市民団体の一つ「広田湾埋め立て開発に反対する会」の会長に就任した。

7代目の怒りは本物で、東京大学の課外講座の公害原論を学ぶために東京に通うなど、活動にかかるエネルギーは並々ならぬものがあった。

そんな時、7代目を育てた母も「あんたが正しいと思ってそうするなら、たとえ八木澤商店がつぶれてもかまわん。正々堂

事業継承の極意

地域社会に根差す経営

地域への思い、地域を脅かすものへの怒りを優先させて行動する精神

過去

現在

新全国総合開発計画への反対

- ・社長自ら市民団体の会長に就任
- ・家族、関連会社取締役も後押し

- ・地元の大イベントの本陣
- ・地元での圧倒的な存在感

先代の強い意志と強力な行動力による伝播

「精神」の継承の重要性

々とやりなさい」と背中を押してくれた。

当時、八木澤商店社長と酔仙酒造の専務とを兼務していた7代目は、会社に迷惑をかけない

いまの・せいいち 日本リクルートセンター（現リクルート）、リクルートコスモス（現コスモスイニシア）を経て1998年組織人事コンサルティング会社「マングローブ」設立。著書に『マングローブが教えてくれた働き方』（P-VineBOOKs）。

マングローブ
代表取締役社長 今野誠一

し、応援してくれたという。結局、調査のくい一本打つことなく国の開発事業は棚上げになったのだった。

前回、何を作るかではなく、コア技術を受け継いでいくことの大切さについて述べたが、それに加えて、今回のエピソードに見るような、商売をしていく上での「精神」を受け継ぐことも非常に重要なことである。

商売の「精神」は、単に言葉で伝えていけるものではなく、先代の意思に基づいた行動によって伝播していくものである。

「地域への思い、地域を脅かすものへの怒りを優先させて行動する精神」は、8代目河野和義氏の強い意志と行動によって、9代目河野通洋氏へ順調に受け継がれようとしている。

ようにと、酔仙酒造に辞表を提出した。すると酔仙酒造も「辞める必要はない。非常勤の副社長にするから好きなように戦え」という裁定を取締役会で下